

「今年は大変な年だった」と、多くの方が感じた一年だったかと思います。

当団でもその例にもれず、例年とは異なる事態に常に悩まされ、葛藤の日々が続いてきました。私個人としても、学生指揮者としての1年を見据えようとした矢先に見舞われた事態に、どうして今年なんだ…と先が見えなくなっていました。新入生も獲得できず、練習もままならない。そんな中で始まった春でした。

何とかオンラインでの練習を始めることができたのは初夏のころ。多くの課題を抱えながらも、今はこれが最善と自分に言い聞かせながら、騙しながら、続けて来ました。

対面での練習が許可されたのが秋のころ。まだ満足に活動することが許されていない学生団体がある中で、合唱団の日常が戻りつつあることに感謝してもしきれない思いでした。と、同時に、春には絶望的だった定期演奏会が現実になりつつあることに希望と不安が入り交じっていました。

そして、度重なる交渉を続けてこの演奏会が本当に現実になったのは2月に入ってからでした。

私はこの一年を通していかに自分が無力で、あがくことしかできないかを知りました。しかしそれができていたのは、たとえ離れていても先生方や先輩方、そして密になれるあなたがいたからこそだということを改めて、強く、実感しました。

先が見えない状況の中で歩を進めるのは簡単なことではありません。けれど、それを可能にしてくれたのはともに歩んできてくれたあなたがいたからです。何度も心が折れかけ、それでも前に立つことができたのは、あなたが、私を支えてくれたからだとことを知っていてほしい。

未だ歌うことを禁じられている、あるいは自粛せざるを得ない団がある中で、こうして私たちの集大成を披露することができる場が与えられたことに感謝しています。

最後に。この演奏会を見てくださった方々、当団に関わってくれた全ての皆様、本当にありがとうございます。

